地域組織の確立で
会員間の絆の促進を

# JAMシニアクラブニュース

第176号
発行日　2022年8月25日
発行者　JAMシニアクラブ
mail jam-senior@jam-union.jp
発行所　東京都港区芝2-20-12　友愛会館11階　JAM本部内　〒105-0014　電話03-3451-2650　fax03-5440-7389

## 第３回幹事会を開催
### 来年度活動方針案等について審議

ＪＡＭシニアクラブは７月22日、東京・友愛会館において、第３回幹事会を開催しました。リモート併用で準備をすすめましたが、17名全員が会議場への参加となりました。

那珂副会長の開会挨拶に続き、大山会長が挨拶。参院選の取組みへの御礼のあと、専守防衛では説明出来ない防衛費の大幅増を掲げる一方、コロナ対策、金融政策などは泥縄的対応しか出来ない岸田政権を批判、介護・年金問題にも触れ、村田きょうこ議員の協力を得ながら政策制度の取り組みを強力に進めると訴えました。

次に、ＪＡＭを代表して川野副書記長からは、①村田きょうこ議員との連携により産業政策、社会保障政策など国会の場でＪＡＭの現場の声をより反映できるようしていく。②当選は果たしたが３年前より得票は減っており、３年後に向けてＪＡＭとして対策を講じていく。等の挨拶がありました。

このあと、報告事項に関連して参院選の取組みについての反省や今後の課題について、多くの幹事から発言をいただきました。

主要議題である、２０２３年度活動方針案については、組織拡大について若干の質疑があったあと承認されました。２０２３年度定期総会については、リモート併用で３年ぶりに会議を開催することを決定、20周年記念祝賀会についても、実施の方向で準備をすすめることを確認しました。（最終決定は８月22日の三役会議）。この他、２０２３年度予算案、役員の補充、準会員の扱い、２０２３年度年間日程の議案について質疑なく満場一致で承認され、午後４時に閉会しました。

## 退職者連合
### 第26回定期総会を開催
～かけがえのない平和を未来を担う若者へつなごう～をスローガンに

７月14日(木)、ＪＡＭシニアクラブが加盟する日本退職者連合の第26回定期総会が開催されました。主催者を代表して人見会長より

（裏面へ続く）→

## 主　張

人生で生涯現役が希望であるが、ある年齢に達したらサラリーマンは停年を迎え、サラリーマンを卒業し、年金生活となりますが、充実したシニア生活をする為には現役時代の趣味や地域活動の出来る人は第二の人生が楽しいと思います。

しかし、大半の人は趣味やボランティアを活用した地域活動は厳しく、テレビ家族となる人も多く、ぬれ落ち葉状態となり熟年離婚も少なくありません。

私は現役時代に、全国軟式野球連盟の審判員を30年近く続けると同時に地域スポーツクラブのボランティア活動を休・際日に行い、退職後も継続して活動をしています。

しかし退職後は毎日が休日となり平日で出来る事と言えば、自宅横にある30坪程度の菜園の野菜作りだけで、空いた時間はテレビ家族となってしまいました。そこで、平日に出来る事は何か無いか試行錯誤していた所、友人からの有力情報で現在の周防大島町では高齢化が進みミカンの約束事として、ある時期に大島全体で一斉に害虫消毒をする約束事があり、ミカン作りを止めれば長年育ててきたミカンの木を伐採する決め事となっています。

また、高齢者は長年育てたみかんへの愛着もあり伐採に難色を示す方も多く、自分でも何かお手伝い出来ないかと思っていた所に、農家からミカン作りの依頼を受け自分がミカン作りを行うきっかけとなりました。

しかし、自分はミカン作りの経験が全く無く苦慮している所、山口県の事業で始めてミカン作りを始める人のために営農塾制度がある事を知り２年間受講しました。そこでミカン作りの基礎知識は習得出来ましたが自然相手のミカン作りは大変です。

10数年前から周防大島でもイノシシ被害が多くなり、国も鳥獣対策として、イノシシ防護対策用防護柵を４年前までは、国の対策補助として材料費の全額補助があり、ミカン農家を継続するにも費用面で継続しやすい状況にあったが、現在では国の補助制度は廃止になり、現在活用出来る制度は地方自治体での補助制度として上限十万円の半額が補助される制度しかなくなり、国・地方自治体への要請が必要だと実感しています。

今後も健康的で体を崩さない程度に、日が昇るとともに起きて農作業をし、日が沈んだら帰る生活が出来るよう自分にあった農業の形を長く続けたいと思っています。

現状では、なかなか儲けを出すことは難しい状況にありますが、農家の特権として新鮮な野菜と果物を食べられることの喜びを感じると同時に、皆さんから大変おいしい褒められることで、一年間の苦労や疲れが忘れられるようなミカン作りが出来る為にも「自分流の人生」を思いきり楽しみたいと思っています。

## 自分流スタイルの　シニア生活

九州山口シニア会長　高村勉

ン農家の廃業が多く農家が大変困っている情報がはいりました。情報による と周防大島全体では、ミカン作り農家

↓「岸田内閣の政策を厳しくチェックしていく。平和と民主主義を守り戦争をさせない活動をしていく」との挨拶がありました。

松浦連合会長代行、立憲民主党泉代表、国民民主党玉木代表、社会民主党福島党首らの来賓あいさつのあと、議事に入り２０２２年度運動方針、予算、政策制度要求、組織拡大方針の議案が提案され、審議の後、満場一致で可決されました。

ＪＡＭシニアクラブからは、大山会長、早川副会長、大野事務局長が役員として、平木事務局次長が代表代議員として出席しました。

## 会員交流会開催「尾張徳川家ゆかりの地」で

### 愛知

**愛知シニアクラブ　熊谷悠之　通信員**

ＪＡＭ愛知シニアクラブは、新型コロナウイルスの蔓延と２年余にわたる感染拡大などで「会員交流会」の開催が中止されていましたが、７月５日「徳川園」散策と「徳川美術館・逢左文庫」の見学など「会員交流会」を実施しました。

久々の開催でしたが、コロナ禍に加え、梅雨期の中での猛暑で当日あいにく小雨模様であり参加希望者で参加されるか否か不安がありましたが、19名と若干少ない参加でありましたが会員の皆さんは久しぶりの顔合わせで良き交流会となりました。

徳川園は名古屋市中心部に位置していて、池泉回遊式の日本庭園で清流が滝から渓谷を下り海に見立てた池へと流れるありさまは、日本の自然景観を象徴的に凝縮されています。

さらに、高低差の大きな地形、既存のまま取り入れた樹林、立体的に迫るなど変化に富んだ景観を大胆に切り替える構成を用いて大名庭園の「荘厳さ」を体験することが出来ました。

徳川美術館は、徳川家康の遺品を中心に尾張徳川家初代義直（家康９男）以下代々の遺愛品、「大名道具」１万件余りを収める美術館でした。また、逢左文庫は尾張徳川家の歴史書物や源氏物語などの絵や文書が展示されていて見ごたえのある見学でした。

散策・見学を開始１時間30分後、美術館に併設されていた「宝善亭」で昼食を採りながら懇親会を行い、吉田博会長より日頃シニアクラブの活動に対してご協力を頂いていることに感謝と参議院議員選挙投票日が迫っていることから選挙支援のお願いを含めての挨拶で交流会を解散しました。

## 退職者連合・地球温暖化学習会に参加して

**大山シニア会長**

日本退職者連合は７月13日、東京の連合会館で全国代表者会議に引き続き、地球温暖化に関する学習会を開催した。講師の東京大学未来ビジョン研究センターの江守正多教授（国立環境研究所上級主席研究員）は、人間の活動による温暖化のメカニズムと大気中のその濃度の上昇、２０１５年の国連パリ協定が現在の国際ルールであり、国際的な共通認識になっていることを強調した。同協定は、「世界的な平均気温上昇を、産業革命以前に比べて２度より十分低く保つとともに、１・５度に抑える努力を追求する」こと、そのために「今世紀後半に人為的な温室効果ガスの排出と吸収源による除去の均衡を達成する」ことを採択した。

また、これからの温暖化の５つのシナリオ、海面上昇、温暖化の８つのリスク、発展途上国、将来世代が深刻な被害を受けることは人権問題であることなどを解説。再エネが加速度的に増えているが、温暖化を止めるには、それだけではだめで、同時に二酸化炭素の主な発生源は化石燃料であり、石油と天然ガスの減少が起きるかということが問われているのが現在と強調した。

続いて、再エネ、太陽・風力のポテンシャル（潜在力）は、環境省の資料で十分にあること、課題としてコスト、系統接続の問題、出力の柔軟性、乱開発の是正などがあることを解説。こうした課題を全力で克服しながら日本も再エネを全力で増やしていく時代に入っていること、人類は化石燃料文明を今世紀中に卒業しようとしていることを指摘した。そのうえで化石燃料を使いつくしたからではなく、化石燃料よりずっと良いエネルギーのシステムを手に入れたからですと、社会の大転換、常識が変わることを強調した。

最後に、「私たちができること」は、一人一人が化石燃料文明を卒業していく動きを応援していくこと、加速していくこと、例えばＳＮＳで発信したり、周りの人と話題にしたり、選挙の時には対策をきちんとやってくれそうな政治家を応援するとか、自治体の取り組みを応援するとか、これができることだと思うと結んだ。

## 石川　３年ぶりに総会開催

８月８日ＪＡＭ石川シニアクラブは第22回定期総会を個人会員４名含む総勢33名で、ＡＮＡホリディイン金沢スカイホテルで開催しました。

総会後、コロナ感染対策を講じて懇親会を開き、マスク着用で会員相互の近況報告を話し合った。久しぶりに旧友と合うことが出来、マスク越しであるが笑顔が絶えない総会・懇親会となりました。